

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22320137

研究課題名(和文)テル・タバンの出土楔形文字文書による紀元前2千年紀ハブル川流域の歴史研究

研究課題名(英文)Historical study of the Habur area in the second millennium BC in the light of the cuneiform documents from Tell Taban

研究代表者

山田 重郎 (YAMADA, Shigeo)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：30323223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：2005年以降の国士館大学によるテル・タバンの遺跡(シリア北東部)発掘調査で出土した約480点の楔形文字文書を研究し、前2千年紀のタバトゥム/タベトゥ市(現テル・タバンの遺跡)とその周辺の歴史と文化を解明することが本研究の目的である。文書断片の保存修復をへて、文書研究を進めた結果、(1)同市は、前18世紀後半、ユーフラテス中流域の王権(テルカ市あるいはその近郊)の政治的影響を強く受け、前15-14世紀からは「マリの地の王」を名乗る在地の王朝が統治したこと、また(2)同市は、周辺の強力な国家の動向に政治的に対応しながら、ローカルな文化を一定の水準で維持していたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The aim of the project is to study the c. 480 cuneiform documents that were discovered at Tell Taban by the excavations of Kokushikan University since 2005, and to clarify the history and culture of the ancient city of Tabatum/Tabetu (mod. Tell Taban) and its surroundings during the second Millennium BC. We made conservation and restoration work on the fragments of the documents, and studied them. The study revealed: (1) The city was set under the influence of the monarchic power of the Middle Euphrates region (at or around Terqa) in the late 18th century BC, and then, since the 15-14th centuries BC onward, the local kings, "kings of the land of Mari," ruled the city of Tabatum/Tabetu; (2) The city maintained its local culture in a certain degree through the ages, while responding to the political circumstances, which changed with the rise and decline of the dominant powers in the surroundings.

研究分野：アッシリア学

キーワード：アッシリア学 楔形文字 粘土板文書 テル・タバンの 西アジア

1. 研究開始当初の背景

(1) 人類最古の文字文明が栄えた古代メソポタミア世界の研究は、19世紀以来、ティグリス・ユーフラテス両河の流域に位置する諸遺跡の調査を中心に進展し、シリア北東部を流れユーフラテス川に合流するハブル川流域は北メソポタミアとユーフラテス川中流域をつなぐ回廊として歴史的に重要な役割を果たしてきたにもかかわらず、あまり注目されなかった。しかし1970年代以降、当該地域の大型遺跡の発掘調査が進んだ結果、多くの楔形文字文書資料が発見され、その詳細が急速に明らかになってきた。

(2) そうした中、ハブル川中流域に位置するテル・タバンの遺跡で1997-1999年に実施され、中断後、2005年から再開されて2009年まで継続していた国土館大学による発掘調査は、我が国の発掘隊としては初めて、注目すべき数の楔形文字文書資料を発見していた。

(3) 研究開始時点(2010年4月)で、2005-2009年の間に出土していた楔形文字文書資料は、以下の3種に大別される：前18世紀後半の粘土板文書(行政文書、書簡、学校文書)(約30点)、前13世紀後半から前12世紀前半の粘土板文書(行政文書、書簡、宗教文書)(約250点)、前12世紀前半から前11世紀前半の粘土製円筒、粘土製釘、レンガ等に刻まれた建築記念碑文(約200点)。

これらの文書の予備的研究により、テル・タバンの遺跡は、メソポタミア各地で出土する楔形文字文書資料に頻りに言及される古代都市タバトゥム/タベトゥムであることが証明され、前2千年紀前半の異なる時期におけるこの都市をめぐる歴史と文化の概要が、明らかになってきていた。すなわち、前2千年紀前半、同市は、南方のユーフラテス中流域に位置するマリ市やテルカ市を拠点とする王国の政治的・文化的影響下にあったが、前2千年紀後半には、東方のティグリス中流域を拠点とする大国アッシリアの影響下に置かれつつも、その属州行政には直接含まれず、「マリの地の王」を名乗る在地の王朝が同市を中心とする独立した行政権を維持していたという、実態が明らかにされた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、2005年以降の国土館大学の発掘調査により出土した上述の約480点の楔形文字文書を、同遺跡からさらに出土することが予想される楔形文字資料とともに、系統的に研究し、古代のタバトゥム/タベトゥ市(現テル・タバンの遺跡)とその周辺の歴史と文化の詳細を解明することであった。

(2) テル・タバンの出土文書は、前2千年紀前半と後半の資料を含んでおり、ハブル川流

域に関して少なくとも前18世紀後半から前11世紀前半までの約700年にわたる長期間について、従来のデータの欠落を埋める貴重な史料である。加えて、これらの文書は、粘土板、レンガ、粘土製釘、円筒といった様々な媒体に記された文字資料であり、内容的にも行政文書、建築記念碑文、書記学校文書といった異なる種類の資料を含んでいる点で、極めてまれな多様性をもった新資料である点が注目される。

具体的な目標としては、以下を設定した。

シリア・ダマスカス博物館に所蔵されたテル・タバンの出土文書の保存処理作業は、シリア考古局の技術者によって進められていたが、この保存処理作業と並行して、未解読文書の解読を進めること。

保存処理と記録作業が完了したすべての文書の体系的な研究をめざし、ハンドコピー、音訳、翻訳、文献学的注釈の作成を進め、文書の体系的出版の準備を行う。

毎年行われる発掘調査に同行し、新たに見られる新資料の記録と解読を行い、それらについての予備報告書を作成、発表するとともに、新資料に照らして、随時、これまでの研究成果の見直しを行う。

各種文書資料の分析ならびに周辺の他の遺跡から出土する資料との比較検討に基づき、異なる時代のタバトゥム/タベトゥ市とその周辺の政治、行政、社会、祭儀、歴史地理等に関する個別研究を実施する。

3. 研究の方法

(1) 2010年8月～10月に行われた調査において、2005年に出土し、まだ保存修復処理の済んでいない中期アッシリア時代と古巴ビロニア時代の粘土板文書断片をダマスカス博物館から借り出してハッサケのテル・タバンの遺跡調査キャンプに移送し、そこで日本とシリアの保存処理技術者が共同でこれら資料の保存修復を行った。これを受けて、文書研究者が未整理だった粘土板断片に整理番号を付け、多くの粘土板断片を接合して、新たな文書の解読・研究に向けた資料の復元、整理、記録を行った。

同時に同調査期間中に新たに出土した14点の楔形文字資料(円筒碑文断片1点、土製釘断片1点、焼成レンガ断片12点)の詳細を記録し、写真撮影、ハンドコピー作成、ならびに解読作業を行った。

当初の予定では、2011年以降も、継続的にテル・タバンの発掘調査に文書研究者が参加し、新たに出土する楔形文字資料を記録し、ダマスカス博物館に所蔵されている資料のさらなる校訂、研究を行う予定であったが、2011年以降のシリアにおける治安悪化のため、この計画は中止となった。そこで、すでに記録した写真、ハンドコピーをもとに記録された文書の研究に力を注ぐことにした。

(2) 解読、研究に当たっては、国内研究拠

点である筑波大学に楔形文字学ならびに西アジア考古学関係の書籍・資料で不足しているものを集積して研究作業を進めると同時に、ほぼ毎年、文書研究者がハイデルベルク大学あるいはミュンヘン大学のアッシリア学専門図書館に中・長期滞在して、集中的に文献学的研究を進めた。

4. 研究成果

テル・タバンの出土文書の研究により研究期間内に明らかになった事項の要点は、以下のよう整理される。

(1) タバトゥム市(テル・タバンの)とその周辺地域は前18世紀後半から前15世紀ころまで、ほぼ一貫してユーフラテス中流域の政治的中心(テルカ市あるいはその近郊)の政治的影響を強く受け、宗教文化的伝統ならびに書記伝統において多くの点でユーフラテス中流域の諸都市と連なっていた。この時期(古バビロニア時代)のタバトゥムの有力者は、アムル系の人々であったと考えられる。こうした伝統文化は、当該地域において、暫時変容を遂げながらも、ある程度維持されていたと考えられる。

前15・14世紀以降は、「マリの地の王」を名乗る在地の王朝がタバトゥ(タバトゥム)市に現れるが、この王朝は、当初考えられていたようにアッシリア起源ではなく、在地の有力者によって形成されたとみられ、前15世紀には、フリ語の名前を名乗っていたが、のちにアッシリア王国の影響下に入ると、政治的・文化的に「アッシリア化」したと考えられる。

(2) 古バビロニア時代のタバトゥムには、ローカルな部族社会を代表して市政を管理する地方有力者が、南方の王国の中央政権により任命され、都市とその周辺を管理していた。

(3) 古バビロニア時代のタバトゥムでは、南方のユーフラテス中流域の政治中心(マリ、テルカ)において用いられていたものと同じ月名からなる祭儀暦が行われていたほか、プドゥムと呼ばれる償いの儀礼、「ハナ書式」と呼ばれる契約文書の書式、度量衡等にもユーフラテス中流域の拠点と共通する文化的諸相が見いだされる。

(4) 古バビロニア時代のタバトゥムに由来する音節文字練習表、神名表、度量衡換算表などの書記学校教材とみなされる文書の内容は、基本的に南部のメソポタミアの学校文書とおおむね共通しており、メソポタミアの標準的書記学校教材が、テル・タバンのにも伝播し、さらに西方のシリアに普及していったものと推測される。

(5) 中期アッシリア時代のテル・タバンの文

書に頻繁に現れる「王の娘」は、西方の宗主国アッシリアからタバトゥム/タバトゥ市の「マリの地の王」に嫁入りしたアッシリア王の娘(たち)であると考えられる。このような王朝間婚姻は、おそらくアッシリア王国の通常政策の一環であり、これによりアッシリアと従属的・地方王国の政治外交的関係が確保され、相互的利益が約束されたと考えられる。

(6) 中期アッシリア時代に由来する文書(行政文書、書簡)には、アッシリア王シャルマネセル(1世)とその皇太子トゥクルティ・ニヌルタが、西方の有力都市カルケミシュに赴くのをマリ国の王家が支援する様子や、アッシリア王国の西方支配に決定的な権力をふるったことが知られている高官イリ・パダが、タバトゥ市近郊で病にかかり、これにマリ王国の関係者が対処しようとしたこと等、重要な歴史的情報が見いだされる。

(7) 研究の位置づけと展望: 上述のテル・タバンの文書の研究成果は、国際学会において大きな関心を持たれており、これまでの業績は、高く評価されていると考える。テル・タバンの文書研究の最重要課題のいくつかは、本研究計画により達成されたといえるが、なお、すべて文書の体系的出版と研究が学界に待望されており、そのためには、一層の努力と継続的研究が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Daisuke Shibata, Hemerology, Extispicy and Ili-pada's Illness," *Zeitschrift fuer Assyriologie* 査読あり, 2015, in press

Shigeo Yamada, Review article: Oliver Rouault, Terqa Final Report 2: Les textes des saisons 5 a 9, *Bibliotheca Mesopotamiaca*, Volume 29, Malibu: Undena Publications, 2011, *Zeitschrift fuer Assyriologie*, 査読あり, Vol. 104, 2014, 107-112
DOI: 10.1515/zava.1894.9.1.42

Shigeo Yamada, An Adoption Contract from Tell Taban, the Kings of the Land of Hana, and the Hana-style Scribal Tradition, *Revue d'assyriologie et d'archeologie orientale*, 査読あり, Vol. 105, 2011 (published 2013), 61-84

Shigeo Yamada, Pudum Rotation List from Tell Taban and the Cultural Milieu of Tabatum in the Post-Hammurabi Period, *Revue d'assyriologie et d'archeologie orientale*, 査読あり, Vol. 105, 2011 (published 2013), 137-156

Daisuke Shibata, Toponym 'Land of Mari' in the Late Second Millennium B.C., *Revue d'assyriologie et d'archeologie orientale*, 査読あり, Vol. 105, 2011 (published 2013), 95-108

Daisuke Shibata, The Origin of the Dynasty of the Land of Mari and the City-god of Tabetu, *Revue d'assyriologie et d'archeologie orientale*, 査読あり, Vol. 105, 2011 (published 2013), 165-180

Shigeo Yamada, Administration and Society in the City of Tabatum as seen in the Old Babylonian Texts from Tell Taban, *Al-Rafidan*, 査読あり, Special Issue, 2010, 247-252

Antoine Jacquet and Daisuke Shibata, The month-name qusshu in the Middle Assyrian period, *Nouvelles Assyriologiques Breves et Utilitaires*, 査読あり, 2010, 88-89

〔学会発表〕(計6件)

Daisuke Shibata, Hemerology, Divination and Ili-pada's Illness, 60th Rencontre Assyriologique Internationales, 2014年7月24日、University of Warsaw (ワルシャワ(ポーランド))

Shigeo Yamada, "Old Babylonian School Exercise of Tell Taban," Conference: "Culture and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Scribal Education and Scribal Tradition" 2013年12月6日、University of Tsukuba (茨城県つくば市)

Daisuke Shibata, "The Local Scribal Tradition in the Land of Mari during the Middle Assyrian Period," Conference: "Culture and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the second Millennium BC: Scribal Education and Scribal Tradition" 2013年12月6日、University of Tsukuba (茨城県つくば市)

Daisuke Shibata, "Assyrian Princesses in the Land of Mari," Symposium: Understanding Hegemonic Practice of the Early Assyrian Empire, 2013年3月15日、University of Leiden (ライデン(オランダ))

〔図書〕(計8件)

Shigeo Yamada, Old Babylonian School Exercise from Tell Taban, in: D. Shibata and S. Yamada eds., *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Scribal Education and Scribal Tradition*, 2015 (近刊)

Daisuke Shibata, "A Diplomatic Journey of King Shalmaneser I and Prince Tukulti-Ninurta to Carchemish", in: Y. Heffron, M. Worthington and A. Stone (eds), *Studies in Honour of Nicholas*

Postgate, Eisenbrauns: Winona Lake, 2015 (近刊)

Daisuke Shibata, Dynastic Marriages in Assyria during the Late Second Millennium B.C. in: B. Duering (ed.), *Understanding Practices of the Early Assyrian Empire: Essays Dedicated to Frans Wiggermann*, PIHANS 125, Nederlands Instituut voor het Nabije Oosten: Leiden, 2015, 314 (235-242).

Hirotohi Numoto, Daisuke Shibata, Shigeo Yamada, Excavations at Tell Taban: Continuity and Transition in Local Traditions at Tabatum/Taberu during the second Millennium Bc, in D. Bonatz and L. Martin (eds.), *100 Jahre archeologische Feldforschungen in Nordost-Syrien – eine Bilanz*, 2013, 331 (167-179)

Shigeo Yamada, "The City of Tabatum and its Surroundings: The Organization of Power in the Post-Hammurabi Period," in G. Wilhelm (ed.), *Organisation, Representation and Symbol of Power*, 2012, 830 (489-505)

Daisuke Shibata, "Local Power in the Middle Assyrian Period: The 'King of the Land of Mari' in the Middle Habur Region," in: G. Wilhelm (ed.), *Organisation, Representation and Symbol of Power*, 2012, 830 (489-505)

Daisuke Shibata, "Continuity of local tradition in the Middle Habur region in the 2nd millennium BC; The local calendar of Tabetu in the Middle Assyrian period," in: H. Kuehne (ed.), *Dur-katlimmu 2008 and beyond*, *Studia Chaburensia* 1, Wiesbaden: Otto Harrassowitz, 2010, 255 (217-239)

⑧ 山田重郎「前2千年紀におけるアムル人、アラム人とアッシリア」大沼克彦・西秋良宏編『紀元前3千年紀の西アジア—ユーフラテス河中流域に部族社会の原点を探る』六一書房、2010、187(129-137)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 重郎 (YAMADA, Shigeo)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：30323223

(2) 研究分担者

柴田 大輔 (SHIBATA, Daisuke)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：40553293